

【講師】小久保 恭一 氏 (有)お花屋さん 代表取締役  
(有)お花屋さんぶんご清川 代表取締役



## 【授業内容】

### 「出逢い」 ～人に出会って夢を実現できた人生～

- ◇高校時代オートバイの免許取得を許してくれない厳しい親父との交換条件は「旅」  
高1 長野県八ヶ岳・黒部ダムへ。高2 冬の富士山 5 湖巡り。高3 14 日間の北海道旅行。大阪万博。  
農業実践大時代 各地へ旅行。冬はスキー。夏は登山。読書や映画。知の蓄積と新たな事への挑戦。
- ◇自分の考えを人に言う。⇒発想に価値を見いだした人が集まってくる。⇒実現の可能性が高まる。
  - ・農業の分業制(苗は海外・栽培は農家・出荷は農協)の発想に商社(丸紅)が反応⇒実現
  - ・ブラジルでの苗栽培スタート:娘(17 歳)もブラジルに連れて行き、6ヶ月の海外滞在経験をさせる。考え方が変わった娘⇒ブラジルは、自己責任が求められ、守ってくれるのは家族。家族の絆が深まった。
- ◇ブラジルで「世界の園芸大国オランダ」と出会って、大きな衝撃を受ける。(データ農業をベースに)
  - ・オランダは、天然ガスを利用して安定した周年栽培を確立。さらに、世界中の種苗を集め、研究・増殖し、世界中へ販売。全て数値化したマニュアルを世界中の農場の管理者に渡して栽培している。
- ◇愛知県で佐伯市蒲江の研修生を受け入れたことが縁になって、大分県豊後大野市へ移住
  - ・夕食会での一言から大規模農場建設の話が持ち上がり、(有)お花屋さんぶんご清川が設立された。
- ◇「のれん分け事業」として、豊後大野市で 11 名の新規就農者を独立支援してきた。
  - ・農業の技術指導だけでなく生活や子育て、様々な悩みの相談にもものっている。
- ◇日本人だけでは、農業が成り立たず、多くの技能実習生を受け入れ、様々な国と出逢う。
  - ・帰国した実習生の国へ技術指導へ行ったり、実習生の結婚式に出席したりした。
  - ・カンボジアでは、結婚式に 20 万円分の花を使い、男性が女性の家に入る場合が多い。(月収 1 万円)
- ◇日本の常識は、世界の常識ではない。
  - ・砂漠の国イスラエルは、ガリラヤ湖から全土に灌漑用水を行う。貴重な水・肥料を効率よく使う世界トップ水準の技術を持っている。男女とも徴兵があり、全員銃を扱え、治安は日本並。
- ◇できる経験はしていく。本をたくさん読む。(その本の主人公の人生を何度も経験できる。)
- ◇お花屋さんグループの規模を拡大して、キクの単価をコントロールしたい。
  - ・物価は、メーカーの都合で上がるが、農産物は、需要が大きく影響して不安定。安定させたい。
- ◇人との出逢いが人生を変える。出逢いは、自分自身のため。
- ◇言語より「笑顔」が大切。「笑顔」で「何でも食べ」て単語を並べれば通じる。「笑顔」で乗り越えられる。
  - ・赤ちゃんは、生まれた後の自分を守るために、おなかの中で「笑顔」の練習をしている。

### 《生徒の感想から》

- ・豊後大野市に世界で活躍している有限会社があることを誇りに思いました。
- ・日本の常識にとらわれず、外国の技術や人材を活用してきた小久保さんは、すごいと思いました。
- ・笑顔は国境に関係なく伝わることやいろんな文化に触れることで新たな価値観や考え方を得られることも知ることができました。小久保さんの自ら違う環境に飛び込んでいく勇気がすごいと思いました。
- ・自分の夢を叶えるためには、言葉にすること、たくさんの人と出逢うことが大切とわかりました。
- ・いろいろな国々の価値観を否定せず受け入れることはとても素敵なことだと思います。
- ・好きな物を見つけることや挑戦して成功するだけでなく、失敗することで経験が残るんだと思いました。
- ・学んだことは、いろいろな人と出逢って、いろいろな価値観を学ぶことは大切だということです。私は、今、将来について悩んでいます。小久保さんのようにいろいろな体験をしようと思っています。
- ・必要なのは、笑顔と度胸だけと聞いて、気持ちが楽になり、外国に行ってみようと思いました。
- ・「今の子は、責任から逃げる。」と言われ、自分自身にもそういう一面があると思いました。責任とか考えすぎず、思いついたら、何でもやってみようようにしたいと思っています。
- ・将来の進路について、なかなか勇気が出ません。しかし、小久保さんが言っていた「人生は一度きりだから」という言葉を聞き、がんばってみようかなと思うことができました。
- ・小久保さんは、とても楽しい人生を送っていると思いました。私は、怖いことを避けがちなのですが、ただ生きるのではなく、楽しみながら生きたいと思いました。